

アフロ・ユーラシア 内陸乾燥地文明展

黒アフリカ・イスラーム文明から考える

世界システムとしてのアフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明

アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明とは、アフロ・ユーラシア旧大陸の中央部乾燥地域を舞台に繰りひろげられた文明だ。ここでは、アフリカのサハラ砂漠から、東北アジアのタクラマカン砂漠やゴビ砂漠まで、世界の大砂漠が分布する。

その乾燥地域こそが、人類文明形成の中心地だった。

なぜならそこには、多数のオアシスと灌漑可能な大小の河川が分布し、それを繋ぐ交易路が網の目のように張り巡らされていたからだ。交易をささえたのは、牧畜民がそだてるラクダやウマ、ロバなどの大型家畜だ。交易網の結節点には都市文明が栄えた。大型家畜はすぐれた軍事・政治支配の手段でもあった。それゆえ、内陸乾燥地域には巨大帝国が形成され、諸都市は国際交易によって繁栄した。

牧畜文化と灌漑文化がそだてた世界システムが、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明だ。このシステムによって、遠く離れた地域と異なる民族が結びつき交流し、人類文明を築いた。仏教やキリスト教、イスラーム教という世界宗教も、その交流を促進する宗教思想として生まれた。仏教も、キリスト教も、イスラーム教も砂漠の世界宗教なのだ。

嶋田義仁 企画

アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究会代表、中部大学客員教授

2016年12月5日～2017年3月8日

中部大学民族資料博物館（附属三浦記念図書館2階）

土・日・祝日休館 入場無料

開館時間 9:30～16:30（最終入館16時）

交通アクセス

JR中央本線神領駅下車
スクールバス7分
スクールバスはどなたも
利用可能

運賃：片道210円

民族資料博物館

☎ 0568-51-9193

FAX 0568-51-9194



●公開シンポジウム開催（来聴歓迎）

アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の歴史動態

12月10日（13時～17時）、11日（10時～15時）

於：中部大学 リサーチセンター2階大会議室



アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究会
Association for Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations

写真：ニジェール国のオアシス交易都市アガデスのモスク尖塔

中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

【開館時間】9:30～16:30（入場は開館の30分前）【休館日】土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日（※行事開催日は開館予定）【入場料】無料

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地 TEL:0568-51-9193 FAX:0568-51-9194 E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp <http://www3.chubu.ac.jp/museum/>